

「ネット社会の歩き方：レッスンキット」の実践報告

ーネット社会を「より安全に、楽しく、賢く」過ごすための学習コンテンツを活用した実践報告ー

愛媛県立新居浜工業高等学校 宇佐美 東男

usami@ehime-net.ed.jp

キーワード：ネット社会、情報モラル教育、ネットショッピング、著作権、携帯電話、ウイルス、ワーム、チャット、電子掲示板

はじめに

この「ネット社会の歩き方：レッスンキット」は平成12年度～13年度Eスクエア・プロジェクトの開発成果であり、平成14年度はその開発成果の普及期間として、これまで1年間様々な形で普及活動を行ってきた。この報告書ではレッスンキットを活用した実践授業の一例を報告すると同時に、普及成果についても報告する。

1. 開発の目的

高等学校では教科として「情報」が平成15年度から始まること、そして急速に進みつつあるネットワーク関連技術の進化とその普及により、大人から子供まで様々な場所でインターネット関連情報サービスを利用するようになってきている。その中で子どもたちがその利用にあたって被害にあったり、本人の自覚のないまま、他者やネットワークに害をおよぼす事もある。このためにも、ネット社会における一定のルールを教える必要性は高く、学校教育はもとより、ネット教育の出来ない家庭からのニーズも強まっているのが現状である。そこで、児童・生徒が教室で可能な限りリアルな情報社会との接触を体験し、ネット社会を「安全に、楽しく、賢く」歩くための知識を身につけるためのカリキュラムとソフトウェアを開発し、その成果を利用した授業を実践する事、そして広く普及させる事を目的とした。特に小、中、高の教育現場で情報教育を実践している先生方が、どのような授業で、どう使うかということを想定しながら、共同作業によって開発したものであり、利用し易く、児童・生徒にとっても親しみ易い教材に仕上がっており、多くの教育機関で利活用されている。

2. 教材の内容

(1) ソフトウェア

学習テーマとして、インターネットで情報検索を5テーマ、インターネットで情報発信を11テーマ、インターネットでコミュニケーションを12テーマ、インターネットショッピングを6テーマ用意されている。

- 解説画面無し学習ユニット：児童・生徒皆でアニメーションムービーを見て、何故そのような問題点が発生したのか、原因を考える。また、問題が発生した場合の対処方法について話し合ったり、調べたりしながら、ネット社会でのいろいろな知識を身につけるための糸口とする。
- 解説画面あり学習ユニット：子ども自身が操作しながら、自己学習をすることができる。教師や保護者が演示する場合は、解説画面の手前で止めて、意見発表や話し合いの後で解説すると良い。
- 電脳商店街：ショッピング体験をととして、ショッピングサイトを選ぶポイントや問題点が発生した場合の対処方法、注文する時の注意点など知識を身につける。代表的な学習テーマとして8店舗が電脳商店街に出店されている。

(2) カリキュラム

- 指導事例：学習ユニット、電脳商店街を利用した指導事例であり、ソフトウェアを利用した授業の進め方の例を示す。
- ワークシート：何がわかったか、どうすれば良いかなど理解を深めるためのワークシート。
- プレゼンテーション資料：学習ユニット毎にイラストと説明文によるプレゼンテーション資料。

(3) 学習の進め方

- 解説画面無し学習ユニットを用いた授業の場合、プロジェクターで見ながら話し合う。教える側がそれぞれの場面ごとに簡単に説明を加えながら、生徒に問いかける。その場合、プレゼンテーション資料もあわせて見せながら説明すると、より効果があがる。それはプレゼンテーション資料には関連情報としてのリンク情報が登録されており、こちらから生徒に見せることでより、現実的な問題と認識できる。
- 解説画面あり学習ユニットを用いた学習の場合、一人一人がそれぞれのパソコンで、自分のペースでアニメーションムービーを見ながら、一通り見終わった時点で「ワークシート」に記入し、学習成果をまとめる。関連するウェブページのURLリンク集も用意されているので、グループや個人でテーマを発展させるための研究にも役立つ。

3. 実践授業の内容＜愛媛県立新居浜工業高等学校の場合＞

愛媛県では、平成13年度から愛媛情報スーパーハイウェイと呼ばれる県内イントラネットが稼動を始めた。この中に教育用アプリケーションとして愛媛スクールネットがあり、県下約70校の全ての高校が接続されている。これに校内LANが接続され、ほとんどの教室や職員室からインターネットが自由に利用できる環境となっている。本校ではガイドラインが策定され、これを基に利用規則及び規則に反した場合の指導規則が作成され、日常の情報モラル教材としても活用している。また、年間の計画的な情報モラル学習のカリキュラムとして次のようなものがある。

- ・年間学習指導計画では、1年生は、教科「情報」→代替科目：「情報技術基礎」で、年間2時間学習させ、2・3年生は、他の専門科目で年間2時間学習させている。在学中3年間で6時間学習することになる。この教材として「ネット社会の歩き方」が中心的な教材として利用されている。

- ・学校行事では、年間1時間の「ネットワーク安全防犯教室」を開催している。講師には県警察本部生活安全企画課ハイテク犯罪対策室担当官を招いて、全校生徒・全職員を対象に実施している。この企画は、既に4年間続いている。講演会の感想では、制服警察官が実際にインターネットにアクセスし、ネットワーク被害や犯罪について説明されるので、大変大きなインパクトを受けているようである。県内の他で行われるこのような啓発活動においては「ネット社会の歩き方」が紹介されている。
- ・現職教育では、セキュリティ研修会を全職員対象に年間2回～3回開催し、教材の一部として「ネット社会の歩き方」を利用している。ウィルスやワームからの防護対策やネット取引上の注意、有害情報をはじめとする不良サイト問題、不正アクセス問題、個人情報の取り扱いやデータの暗号化方法などを研修する。また、イントラネットを利用して、ウィルス情報やパターンファイルの提供、システムのアップデート情報を日常的に流し、常にセキュリティ意識を維持するよう心がけている。さらに、地域の教員を対象とした情報モラル教育研修会を年1回開催し「ネット社会の歩き方」を教材として利用している。

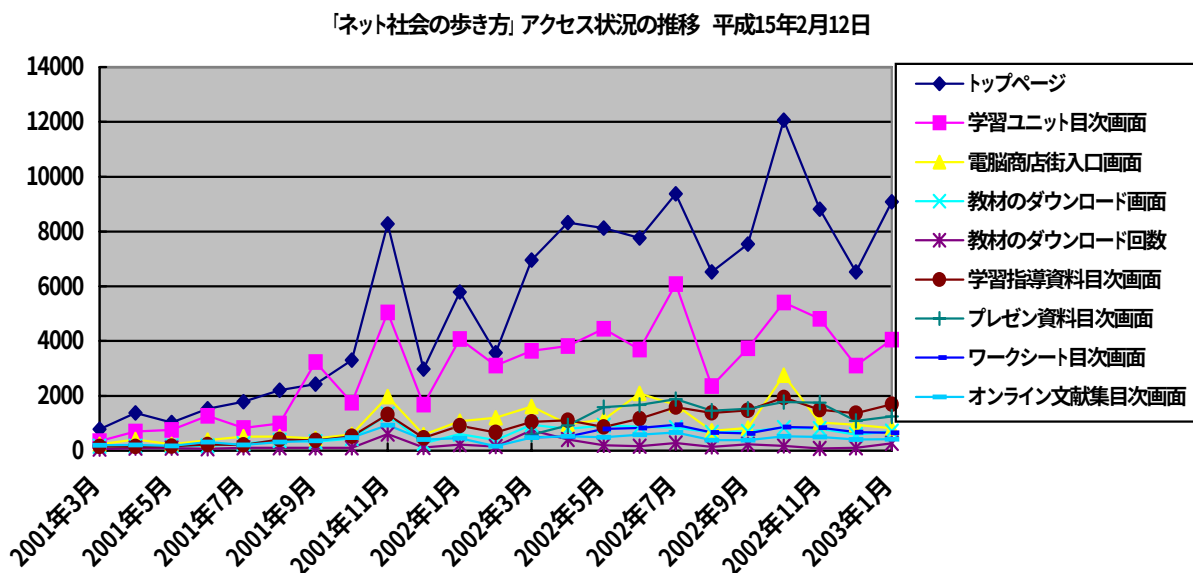
4. 普及活動

「ネット社会の歩き方」 <http://www.net-walking.net/> として平成14年度はサイト運営を行ってきた。授業での閲覧や教材をダウンロードして学校内サーバーにインストールし活用できるよう、そして、教員向け情報教育研修等で使用する画面ハードコピーやCD-ROMの提供などが主な活動内容である。以下に普及活動の成果をまとめた。

(1) ダウンロード状況(平成15年2月12日現在)

- ダウンロード総人数 1244名 (内訳) 小学校:219名 中学校:300名 高等学校:190名 大学:94名 盲・ろう・養護学校等:21名 教育センター等:145名 企業:77名 地方自治体:15名 その他:183名
- ダウンロードの目的 授業:629名 教材研究:278名 研修会:172名 家庭内教育:70名 その他:95名

(2) アクセス状況の推移



5. 考察

(1) アンケート結果

本サイトではこれまで約1200名の方から教材に対する要望を聞いてきた。その中からいくつか意見を挙げる。

- 可能な限り社会情勢に合わせた素早い内容の改定をお願いしたい。 ●携帯電話における被害や事件
- 著作権関係の資料をもっとたくさん教えていただきたい。 ●技術の授業に使えるQ&Aみたいなもの
- 大学生向けバージョン(ややハイレベル)を希望 ●高校での情報ABCに関連する内容
- 中学校で利用するために、道徳的な価値やモラルについて ●音声等入れば、サイズは大きくなりますがありがたいです。
- 電脳商店街のような疑似体験ができるもので、チャットや電子メール・掲示板等

(2) 実践授業

授業を通じた課題として以下のようないくつかの提案があった。これらの中で今後実現可能なものは是非実現し、教材の機能や質を高めることを願っている。

- システム側から学習のレベルに合わせた課題を提示し、回答を評価する機能を付加する。
- 教材の利用者側に必要なアイテムを追加できる機能を付加する。
- 現在、個別学習の機能があるが、さらにe-Learning機能を高める。
- 学習内容に関連する知識データベースとリンクさせ、高度な学習も可能にする。
- 情報関連科目の検定教科書の副教材として提供できる形にする。
- 生涯学習教材として利用できる内容を付加する。